

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人 敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里(けやき)		
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3		
自己評価作成日	令和3年3月14日	評価結果市町村受理日	令和3年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=3071000453-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは豊かな自然に囲まれ、リビングや各居室からも四季折々の風景を楽しんで頂ける環境にあります。家庭的な雰囲気の中で過ごして頂きたいという思いから、職員は私服で利用者様と接し、普段のお食事もホームの中で職員が手作りで提供しています。お食事を最期まで口から食べて頂ける様にと、歯科衛生士の指導を受け、必要であれば歯科医の治療も行なっています。落ち着いた雰囲気の中でゆったりとした生活を送る事により、その人らしさを見つけるお手伝いをさせて頂いています。看取り支援にも取り組んでおり、家族様と職員が協力し合い最後までその人らしく穏やかに過ごして頂けるように努めています。又、地域との関わりや繋がりを大切に考え、盆踊り・運動会などのイベントには出向き、クリスマス会には地域の方々をご招待するなど、利用者支援とともにある地域づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な生活環境の提供や残存能力を活かした生活の推進、尊厳ある生活の重視を理念に掲げ、会議等で日々の支援について話し合う際には理念にそっているかを考えながら取り組んでいます。毎日の食事は利用者の希望を聞いたり旬や暦の上での行事食を考慮しながら調理し、利用者には野菜切りや盛り付け、下膳等出来る事に携わってもらい、手作りおやつや干し柿を作る等楽しみながら力を発揮してもらっています。介護計画は日中と夜間別々に立て3カ月毎に評価して見直し、関係者からの意見もサービス担当者会議時に聴きその人らしく暮らせるための計画に反映しています。また看護職員の配置があり、かかりつけ医は希望に応じて話し合いながら利用者本位により良い方法となるよう柔軟に対応し、看取り支援は家族の意向にそって協力も得ながらチームで取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	来所される方の目に付く箇所に理念を掲示しているが、項目が多く覚えにくい物となっている。簡素化の話もあったが、実施出来ていない。職員には会議の時に地域と共に支え合い、尊厳のある生活を送って頂けるような支援をと話し合いをし、実践に努めている	法人理念の下ホーム独自の理念を開所時より掲げ、玄関に掲示しています。理念については職員アンケートを取り簡素化等見直しをした事もありますがこれまでの理念を継続しています。毎日の食事作りを大切に家庭的な雰囲気作りに努め、日々や会議の中で問題があった際には利用者一人ひとりをみながら理念に置き換え理念中心に考えながら実践に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は中々出来ていないが、地域の行事のお誘いを受け(盆踊り・運動会など)には参加し交流している。又、秋祭りには子供神輿が施設に立ち寄ってくれたり、当施設の職員も地域の一員として草刈りなどに参加している	コロナ禍以前は地域の行事への参加やホームの行事に地域の方の参加を得たり、ボランティアの来訪等地域との交流を図っていました。現在は外出や交流が難しい状況ですが、地域の草刈りにはこれまで通り声掛けがあり職員が参加をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナの為出来ていないが、月に1度ボランティアの方に来て頂き、利用者との会話やレクリエーションに参加して頂いていた。利用者と共に過ごして頂く事で認知症への理解、支援を得られるよう努めていた。又、運動会などに参加させて頂いた時に、地域の方々から話しかけて下さる事もあり、交流しながら理解を深めて頂くきっかけとなっている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、地域運営推進会議を開き、より良いサービスを提供出来るよう情報を提供し合ったり、交流を深めていたが、今年度はコロナウィルスの為開催出来ていない。施設での行事や利用者の状態などを文章化、わかりやすい様に写真も添付して郵送し、少しでも施設の状況を把握して頂ける様工夫している	会議は隔月に行い、コロナ禍以前は近隣2地域の区長や長寿会会長、市職員の参加を得て、利用者の状況や行事や活動等の報告をアドバイスや意見、地域の情報をもらっていました。コロナ禍ではホーム内で行い報告書や写真入りのホーム便り等を家族や参加者に郵送し市には持参し、ホームの現状を知ってもらっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今はコロナ禍の為、開催されていないが、地域運営推進会議に市の職員の方々にも参加して頂き、意見の交換を行っていた。会議が行えない現在は、分からない事があると電話で確認させて頂いたり、認知症セミナーのお誘いもして頂き、参加させて頂いた	市の窓口には運営推進会議の議事録の持参の書類提出の際は直接窓口に行っており、不明な点等があれば電話で随時相談をしています。注意喚起等のメールが届けば職員にも伝え、コロナ禍以前はセミナー等の案内があれば参加していました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、自由に出入り出来る様になっている。転倒防止の為センサーマットやベッド柵を使用する際は、必ず御本人や家族様に説明し了解を得るようにしている。又、隔月の研修の中に年3回の身体拘束事案の内容を盛り込み、職員全体で取り組み報告書も上げている	身体拘束に関する勉強会を年に4回フロア毎で行っています。利用者に待ってもらう場面がある場合はわかりやすく具体的に説明するようにし、安全面に配慮し家族の同意を得てセンサーマットやベッド柵を使用する際は利用者の状況や使用について検討を重ね、実際に使用の際はフロア会議の中で話し合っています。玄関の鍵は日中は開いており、見守りや状況に応じてその都度対応しながら利用者につき添い外気浴をする等閉塞感の無い暮らしへの支援に努めています。		

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等で虐待防止についての資料等を声を上げて読み、話し合いも深めている。言葉による虐待もないか、職員の周知徹底を図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を必要とされる利用者がおられない事もあって、学ぶ機会が中々ない状況であった。今後増えるであろう、独居の方や子供さんがおられない方の入所に備え、2021年度の自施設で勉強会の項目に入れている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定等の際は説明を十分に行い、理解して頂いているが、疑問点がある時はその都度説明させて頂き、理解して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪時にご要望があれば聞かせて頂くようにしている。聞き取った内容は、申し送りノート等で共有している。又、苦情や意見が申し出れるように意見箱も設置している	日々の関わりの中で利用者から得られた外出や食事等の要望は敷地内での外気浴をしたり、献立に反映しています。家族には毎月写真入りの便りを郵送し、利用料等の訪問時や電話で要望を聞いています。コロナ禍での面会が難しい状況ですが、窓越しやカウンター越しに顔を見てもらい、家族からテレビ電話での面会希望があり支援しながら対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全体会議を月に2回、グループホームでは毎月1回のフロア会議を開いている。フロア会議は職員全員が参加する事になっており、互いに意見を出し合い、問題意識の向上に努めている。又、気になる事があれば個人的に面談を行うようにしていて、職員が意見を述べる機会を設けている	月2回の法人全体の会議には代表者が出席し内容についてはホームで伝達し、毎月フロア毎の会議はほぼ全職員が参加して行っています。レクリエーションや食事は勤務表に合わせて職員が担い、職員体制や業務分担等について意見が上がれば話し合い決めています。フロア毎に管理者がおり年に1回の面談の他、職員の様子を見ながら随時声掛けを行い面談する事もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己評価を提出してもらい、後日管理者が一人一人と面接を行ない評価をしている。面接時に職員としっかり話し合い、各自が向上心を持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外への研修はコロナ禍の為行えていないが、介護福祉士などの資格取得の為の勤務日の調整や、職員同士でも協力し合うよう配慮している。又、合格者には奨励金制度を設けている		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と会う機会も殆んどなく、お互いに訪問しあったり、ネットワーク作りなどの為の交流も出来ていない。サービスの質の向上の為に交流をしてみたいという気持ちはあるものの、現状困難である		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者自ら、言葉で思いを伝えられない事が多く、家族様から話を聞く事が殆どであるが、まずは利用者本人に寄り添い、安心感を持って頂ける様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問等で現状を把握していくが、些細な事でわかりにくい場合には綿密に連絡を取りながら、より良い介護サービスを受けて頂ける様に対応する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接やフェースシート等で本人が必要としている支援を検討する。また、医療面においても相談する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームのあり方を念頭におき、寝食を共にする中で御本人の出来る事、出来ない事を見極め、さりげなくフォローし、安心して生活して頂く		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会もままならないが、電話での会話、御本人への家族様の思いなどを伝えるなどして、絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人から届いた葉書見て頂いたり、その際に昔話のエピソードを聞き、良き話相手になれるように、他の職員とも情報を共有し、新たな話題を作れるようにしている	コロナ禍のため面会や外出が難しい状況ですが、これまでのかかりつけ医に往診を受けたり、家族と受診に行く方もおり、家族の入院先に見舞い等付き添う等出来る範囲での支援を行っています。また友人から葉書が届き一緒に話をしたり、年賀状については返事を書く支援等馴染みの方との関係継続することを大切にしています。	

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しやすい方は職員が関わり、仲良く話せる方同士はちかい位置で関われるよう場を提供する。別のユニットにも行きやすくしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ショート等は、次のサービス利用に反映している。また、入院等で一時的に退所されている方に関しても、御本人の状態を見に行ったり、依頼があれば食事介助しに伺ったりしている。又、家族様や病院等の聞き取りで状態を把握し、再入所に備え体制を整えるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話等で、その人の意向を把握し、希望に添えるように努力している。コミュニケーションが難しい方は家族様に意見を求めたりするなどし、その方に合った寄り添い方での対応を行なっている	入居時に施設や自宅に出向いて本人と家族に面談し、生活歴や趣味、習慣、意向、身体状況等聞き取りフェイスシートにまとめ以前の関係者からも書面等で情報を得て思いや暮らし方の希望の把握に繋げています。入居後は聞き得た情報は個人記録への記載や会議の際に新しい情報について話し合い、思いの把握が困難な場合は表情を見たり、家族に聞きながら本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや、家族様からの話から生活歴を把握したり、会話の中で出てくる話の内容を聞き取り共感し、ご本人が生き生きと過ごせるような環境を作っていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートなどで、既往歴や現病症の把握を行い、特にいつもと違った心身の状態時は、素早く対応する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度カンファレンスを開いて(現在は電話報告)担当者、職員と話し合い、介護計画に基づき実践している。主治医とも常に連携し相談したり、家族様への説明もスピーディーに行うようにしている。又、その際に家族様からの要望も聞き、対処するようにしている	本人と家族の意向、アセスメントを基に日中と夜間帯の介護計画を作成し、初回は1カ月、その後は3カ月毎に見直しをしています。見直しの際は再アセスメントと評価を行い、サービス担当者会議は家族は現在電話で意見を聞き、ホームの看護師の参加を得て開催し、主治医や歯科医の意見は往診時に確認し計画に反映しています。計画の実施記録は個人記録と共に毎日項目毎に確認をしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や会話などをケースに記録し、情報を共有してどうなったかの実施結果も記録している。その中で気づいた事を次の介護計画に反映出来るようにしている		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自施設内の老健施設から在宅復帰支援の一環として利用者の受け入れを行っている。グループホームで過ごして頂きながらその人に合った生活リハビリを行い、生活リズムを整えるなど出来るだけ個別対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の行事(盆踊り・運動会など)に利用者と共に参加させて頂いていたが、今年度はコロナ禍の為、中止となり地域資源が使えていない。施設内で行える行事(花見・夕涼み会・夏祭り・クリスマス会等)は縮小しながら行い、季節感や楽しみを味わって頂ける様対応した		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様にも協力して頂き、出来るだけかかりつけ医の受診を継続したり、年齢やコロナ禍の為受診が難しくなってきた方には、本人や家族様とも相談しながらその方に合った訪問医の往診に変更をお願いして、利用者の状態の維持に努めたりあらゆる面で連携を持つようにしている	入居時に希望のかかりつけ医を相談しながら決定し、入居後に状況により変更する事もあり柔軟に対応しています。継続している方は往診や家族と受診し、ホームの協力医はに変更の方は往診を受けています。体調不良時は其々の医師に連絡し指示をもらっており、看護職員が健康管理と共に往診時に同席する事もあります。専門医は家族と受診する方や相談し職員も付き添う場合もあり、歯科往診は希望にそって受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを継続し、変化がある時は記録に残すようにしている。又、看護師に伝え相談したり、指示を仰ぐようにしている。利用者の変化は個人ケースや申し送りノートにも記載し、職員全員が状態を把握出来るよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の状態やアセスメントシートを入院時に病院に提供したり、入院中の状態を確認させて頂く為に、地域連携室とも連絡を密に取るよう心掛けている。又、退院される時は家族様とも連絡を取り合い、不安なく退院出来るように病院側とも日にちを調整するなどの対応をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人や家族様に終末期の対応(ご希望)について話し合いをさせて頂いている。体調が悪くなり、終末期が近くなれば主治医・看護師・家族様・施設の職員等でグループホームでの対応が可能か不可能かを話し合い、家族様の気持ちの変化にもしっかり対応出来るように話し合う場を持つようにしている	入居時に指針にそって説明し、ホームで支援出来る事と出来ない事を伝え、意向を聞き家族の協力を得られる場合は看取り支援が可能な事を伝えていきます。食事が摂れなくなった場合等家族と話し往診時に医師と相談し、看護職員も交えて話し合い方針を決めています。看取り支援の際は家族に夜間の付き添い等の協力を得たり、必要に応じて往診医への変更や訪問看護師の対応を受ける事もあり意向や状況に合わせ柔軟に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年行っていた避難訓練の際に、消防署署員から心肺蘇生術・AEDの使い方などを学ばせて頂いていたが、今年度はコロナウイルスの為行えず、看護師による吸引・心肺蘇生術・AEDの使い方勉強会で学び、実践力を身につけるよう対応した		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した避難訓練を行い、消火器の使い方や消防署への通報の仕方、援助を求める事も合わせ、職員全員が理解している。又、地域の方にも協力して頂ける様、地域運営推進会議の際にも報告させて頂いている	消防訓練は年に2回昼夜を想定し1回は消防署の立ち会いの下行い、通報や消化器の使い方の他利用者と一緒に階段を使つての避難誘導やシート等で利用者を運ぶ訓練をアドバイスを得ながら行っています。法人全体で協力体制が構築されており、運営推進会議で防災の話し合いや訓練の報告を行っています。備蓄は日々の食材のほか水や無洗米、カセットコンロ等を備えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを込めた言葉遣いではあるが、上から目線の言い方にならないよう気を付けている。たとえば、言葉を発する事が出来ない利用者であっても、プライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心掛けている	尊厳について理念にも掲げ、接遇マナーや認知症等の研修や言葉遣いや対応等の勉強会を行い、チェックリストでの振り返りも行っています。日常的に言葉遣いや声のトーンについて職員同士で注意し合うように努め、利用者への声掛けは丁寧過ぎないよう距離感を大切に家族や誰に聞かれても違和感が無いような対応を職員に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者は自己決定出来るので、どうしたいかを常に確認して決めて頂いているが、決められない方に関しては、その方の表情を見たり、生活リズム等で気持ちを汲み取り、支援を行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者の希望に沿った支援は出来ていないが、職員の都合などを押し付ける事無く、一人一人のペースを大切に、出来るだけその人らしい過ごし方が出来るよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔後に手持ちの化粧水を使用されておられる利用者もおられる。又、選べる方にはその日に着て頂く洋服を選んで頂いたり、選べない方は同じ洋服が続いたりしない様に洋服選びにも気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる意欲が出るように、旬の材料を使つての献立を考えたり、彩りにも配慮している。また、料理の盛り付けやジャガイモの皮むきなど出来る事をして頂いている	職員が献立を立て利用者の希望や旬の物、暦の上での行事食を考慮し、またコロナ禍で外食等出来ない中寿司を買いに行ったり、ファーストフードのシェイクや手作りおやつ、畑の野菜が食卓に上る等食べる事が楽しみになるものになるよう工夫しています。日々可能な利用者には包丁で野菜の皮むきや盛り付け、食器洗い、下膳、お盆拭き等力を発揮してもらい、職員は同じ食事を食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段から野菜を沢山食べて頂けるようなメニューを考えている。水分や食事が少ない利用者には、食事の時間以外でも、あんぱんやその方の好きそうな物を提供し、少しでも栄養摂取や水分の確保が出来るよう努めている		

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っているが、拒否される時は時間を置いて対応している。上下義歯・部分入れ歯等、利用者により様々であるが、その人に応じた口腔ケアを心掛けている。また週に1度歯科衛生士が口腔ケアを行ってくれ、必要であれば歯科医が来て治療も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排尿パターンが違うので、しっかりと把握しトイレでの排泄や自立に向けた声掛けを行っている。立位が難しい利用者に対しては二人介助で誘導し、出来るだけトイレでの排泄支援に努めている	個人ケースに排泄を記録し個々のパターンを把握し声掛けや誘導を行い、立位が難しい方も2人介助し日中はトイレでの排泄を支援しています。夜間は状況に応じて誘導の方や排泄用品の形態が変更になる方もいます。布の下着で過ごしている方は現状維持に努め、またトイレ誘導を継続する事により失敗が減りパッドの種類を変更する等一人ひとりに合った自立に向けた支援について日々の申し送りの中で職員同士で話し合っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立を考えたり、毎朝ヨーグルトを提供している。また、便秘気味の方には牛乳を飲んで頂くなど、出来るだけ自然排便を促すような対応をしている。それでも排便が見られない時は、薬を追加したり看護師にテレミン坐薬挿肛してもらうなど、便秘状態が長引かないようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日の入浴になっているが、その時の利用者の体調や拒否されるような場合は無理強いする事無く、日にちを変更したり、午後からの入浴にするなど出来るだけ希望に添えるような対応をしている	入浴は1日おきに週3回以上、午前中から午後の時間帯で声掛けをし順番等の希望を聞きながら支援しています。菖蒲や柚子湯等の季節湯や入浴剤を使用し、職員と昔話をしながら個々のペースに合わせて出来る限りゆったり入ってもらえるよう努めています。強い拒否の方はいませんが、時間をおいたり声を掛ける職員や日を変更する等無理無く入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早めに休まれる方や、テレビを観てゆっくりしたい方など人それぞれなので、出来るだけその人の気持ちや状態に添えるような支援をしている。昼食後に昼寝をしたい方や昨夜余り眠れていない利用者には昼寝の声掛けをし、休息の時間を持って頂く様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服用している薬は、薬箱に1週間分セットし、表からも見て解るように薬名・用法などを記載した紙を貼り、職員全員が把握出来るよう対応している。臨時薬が処方された時は、申し送りノートに記載すると共に薬箱にも薬名用紙を添付している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、得意な事・出来る事を手伝って頂ける様に支援している。運動を兼ねてごみ捨てに同行して頂いたり、歌の好きな人の為にカラオケや懐かしい歌謡曲のDVDを購入し楽しんで聴いて頂いたりしている		

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の状態が悪い時に、他の家族様とも連絡を取り合い病院に行き、面会が出来るよう段取りしたり、家族様が亡くなられた際にも利用者や残された家族の気持ちを大事にし、出来るだけ気持ち穏やかにお別れが出来るよう式場まで送迎するなどの支援させて頂いた	コロナ禍以前は日々の散歩や季節毎の外出、1泊旅行等外出の機会がたくさんありました。コロナ禍ではドライブで紅葉を観に行ったり日々の中で少人数で出掛けています。敷地内の散歩や桜の木があり観に行ったり、畑の草ひきやベランダのプランターの水やり等外気浴をしています。家族とかけつけ医の受診や家族の見舞いやお別れに一緒に付き添い外出の支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルスの為外出の機会がなく、自身でお金を使う事の楽しさといったような体験が出来ずにいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から手紙を送りたいという訴えはないが、年賀状の返事を返す支援はさせて頂いた。又、家族と話がしたいという利用者の思いを大切に、電話を入れてお話出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に写真や季節を味わえるディスプレイ(お正月・雛飾り・五月人形・クリスマス等)をし、気持ちが落ち着くように懐かしい音楽や童謡をかけたりしている。また、テレビを観やすい所にソファを置くなどして皆が心地良く過ごして頂く様にしている	玄関やリビングに生花を飾り、利用者と一緒に作った壁画や兜等の季節の飾り付けや写真の掲示をしています。テーブル配置は利用者の関係性の考慮や間隔を空けており、リクライニングチェアを2箇所に置き、少し離れた場所でも過ごしてもらえるよう配慮しています。換気は温湿度計を確認し開ける場所を工夫して行い、加湿器や空気清浄機を置き、また手すりの消毒やモップや掃除機掛け等分担し何度も行い清潔保持に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファも2か所に設置し、テレビを観ながら話が出来空間と、少しウトウトして頂ける空間とに分けている。一人でゆっくりしたい場合は、お部屋に行き休んで頂く様にしている。又、席は固定せずいつでも誰でも座れるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・大切な思い出の品(時計など)を居室に置き、出来るだけ家で過ごして頂いているような状態に近づけるようにしている。又、家族様との写真を飾ったりする事で、居室でも安心して過ごして頂ける様にしている	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝え、テレビや机、椅子、鏡台、大切にしている掛け時計や家族の写真、友人が描いた絵等を持参し、趣味の将棋や編み物道具、ミシン等を持ってきている方もいます。家具等の配置は家族と一緒に相談しながら行い、希望や生活習慣に合わせマットレスや布団で休む事も可能です。居室の掃除は隔日に掃除機やモップ掛け、ベッド柵拭き等行い居心地良く過ごせるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を掛けており、利用者によっては自分の部屋だと認識されている様子である。自らトイレに行かれる方には、トイレの場所を理解して頂ける様にトイレに表示をつけるような配慮もしている。又、大きなカレンダーを掲示し、日にちの把握にも努めている		